

東日本大震災が発生した3月11日を迎えて

2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災から15年を迎えました。あらためて、地震によって犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々へのお見舞いを申し上げます。

さて、東日本大震災は、最大震度7を観測し、東北地方の太平洋沿岸部を中心に広い範囲で大規模な被害となり、震災による死者・行方不明者は1万8千人を超え、多くの家屋が全半壊し、電気、水道、道路、鉄道等のライフラインにも甚大な被害が発生し、我が国の防災対策に大きな見直しを迫るものとなりました。

東日本大震災の教訓を生かした防災対策が推進される中、2016年(平成28年)4月に熊本地震、2024年(令和6年)1月に能登半島地震が発生し、大規模広域災害への対策の難しさを痛感しました。

また、南海トラフ沿いでの大規模地震については、今後30年以内にマグニチュード8～9級の地震が発生する確率が70%から80%とされており、一昨年(2023年)の8月に起きた宮崎県日向灘での地震で、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が初めて発表された際には、南海トラフ地震がいつ発生してもおかしくない切迫性の高い状態であることを再認識しました。

私たちは、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、そして能登半島地震など、これまでの災害から多くの教訓を継承し、その教訓を活かし、「自らの命は自らが守る」という意識を忘れず、日々の備えや訓練を継続して取り組む必要があります。

竜王町といたしましても、町民の皆さまが安心・安全に暮らせるよう、防災に対する意識を常に維持し、「自助」「共助」「公助」の強化連携を図りながら、迅速・的確に行動できるよう努めてまいります。

町民の皆さまにおかれましても、改めて災害への備えと安心・安全なまちづくりへのご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、被災された各地の早期復興を心からお祈り申し上げ、3月11日を迎えてのメッセージとさせていただきます。

令和8年3月11日

竜王町長 西田 秀治